

大会テーマ：災害と社会福祉学

～災害国日本における社会福祉学の位置（仮）：
3.11 以後の日本の社会福祉学を構想する～

2011年3月11日の東日本大震災、津波、そして原子力災害は、われわれが戦後、経済の成長や安定を前提にして作り上げてきた社会システムや生活価値を大きく塗り替えるものとなった。3.11以後の日本をどう構想するのか、知を結集させ発信することがあらゆる学問分野にとって、社会的使命であろう。社会福祉学も例外ではない。とりわけ実践科学である社会福祉学は、多くの国民が生活危機に直面しているこの時こそ、真価が問われているとあってよい。3.11以後の社会システムをどう構想するのか。災害国日本における学としての位置を確認し、次の50年を考える。

●●日時：2012年3月10日（土）●●

●●場所：東洋大学白山校舎●●

■ 9：30～12：30 自由報告

- ① 研究報告部門（報告30分、質疑応答25分）
- ② 萌芽的研究報告部門（報告15分、質疑応答10分）
- ③ 実践報告部門（報告15分、質疑応答10分）

○報告希望者は、2012年2月13日（月）までに、上記の報告部門、主題および副題、所属（正確に）、氏名を明記してメールで応募してください。

宛先：2011年度日本社会福祉学会関東地域部会研究大会自由報告担当
高橋克典宛（k2takahashi@me.com）

*なお報告者が大学院生の場合は、指導教員の氏名及び応募の承諾を得た旨を付記すること。

○発表要旨原稿：2012年2月24日（金）、①はA4サイズ2頁、②③はA4サイズ1頁
発表要旨の様式等詳細は応募者に後日メールでご連絡します。

*2010年度より自由研究報告の部門が新しくなりました。

従来の制度・政策部門、理論部門、方法部門を「研究報告部門」に統一し、野心的かつ挑戦的な研究を報告する場として「萌芽的研究部門」が設置されています。

奮ってご応募下さい。

■教育セミナー 11：00～11：30

『福祉実践家参画型プログラム評価と効果的プログラムモデルの形成の方法』

日本社会事業大学 大島巖

■運営委員会 11：30～12：20

■総会 12：30～13：00

(シンポジスト事前打ち合わせ 12:30~13:00)

■ 記念講演

『社会福祉学は東日本大震災をどう受け止めるのか』(仮) 13:00~13:50

東洋大学 古川孝順

■ 大会シンポジウム 14:00~17:00

災害国日本における社会福祉学—なにを追究し発信するのか

- | | | |
|-----------------------|--------|------|
| ① 被災地の貧困化をどう考えるのか | 首都大学東京 | 岡部卓 |
| ② 災害弱者への支援のあり方をめぐって | 立教大学 | 河東田博 |
| ③ 被災地支援における子ども支援の実践から | 東洋大学 | 森田明美 |
| ④ 被災地の視線で考える社会福祉学への期待 | 岩手県立大学 | 都筑光一 |

指定討論

阪神淡路大震災、東日本大震災の支援経験から

法政大学 宮城孝

コーディネーター 大正大学 山田知子、日本社会事業大学 大島巖